
リリカルなのはStrikerS ~ 静かな力 ~

Tabx

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リリカルなのはStrikers ～静かな力～

【Nコード】

N2244Z

【作者名】

Tabx

【あらすじ】

教育大学のしがない大学生がある日珠を拾う？ってしまいいりりカルなのはの世界に連れて来られてしまう！
唯一できることは中学からやっているJUDO・・・
魔法にどうやって立ち向かうんだ？ あれ？
リンカーコアが生成されてる？ なんで？

初めて書かせてもらうので主人公の性格や文章が崩れてしまうときが

よくありますがかんばります<>

プロローグ

自分の名前は鹿島 かしまゆうた 裕太 21 歳

教員を目指して教育大学に通ってる普通の大学生だ
趣味というより生きがいは中学からやっている柔道

本当に何も無い平凡な日常を謳歌とまでは行かないが歩んでいた・

あの時までは

「あー 大学遅刻しそうだ・・・が布団気持ち良いなー
どーしーよーかーなー

って遅刻したら単位取れなくなるし講師からの目がやばい！」

と自分は布団から飛び出て普通の服に着替え何も食べないで部屋か
ら出た

そして自転車にまたがり立ち漕ぎした矢先・・・パンツ という
いやな音が鳴り

顔から前のめりに倒れ、頭に？が上がった

「な、なんだよ畜生ー ん？ これ珠？ なぜここにおて」あ、危
なかつた』え？」

独り言言い終わる前に誰かの声が聞こえ、声が詰まった

「誰だ！」

『・・・』

あたりを見渡す限りでは誰もいない

「疲れてるのかな 時間が無いし まあいいか 行こつと」
ポケットに珠を入れ自転車を起こし再度大学へ向かった

夕方

「ふう 自分で目指したのはいいが疲れることこの上ないな
早く家に帰って寝るとしよう そういえば」

自転車を漕ぎながら朝拾った珠をポケットから出し眺めた

(それにしても綺麗だな 自分の物にしていいのかな?)

『自分の物とはどういう意味ですか やつと思いついてくれて少し
うれしかったのに・・・』

！ 少しおかしいと思い自転車を止めた

(これ幻聴かな かわいい声してていいな)

『幻聴じゃないですよ 鹿島裕太』

(なんで俺の名前を・・・というよりなんで心の中で会話が成り立
っているんだよ
どこの誰だ君は)

『私は今あなたが手に持っているデバイスのAI知能です』

(デバイス？Ai知能？ なんだよそれ 意味わからん)

自分は首を傾げ珠を凝視した

『説明し難いですね たしかこの世界に魔法というのはないでしたね』

(まほう・・・ ああ魔法ね魔法うんうん子供るとき使えると信じてたあれね

すごいよねー 空も飛べて手からいろいろ出せたり憧れるわー)

(で？ 子供の頃憧れてたものが何？)

『私はその魔法というものを補助したりするのです

そして今の私の役目は魔法資質が少しでもある人に声を掛け・・・ これ以上は言わないで置きましょう

私と会話が出来るといふのはあなたに魔法資質があるということですよ』

(え？ 21歳になってそれを信じると？)

『信じなくてもいいですよ 明日になれば全て解かります』

『会話が長くなってしまいました これ以上のことは・・・ね？』

(え？・・・)

目の前が白くなり次に目を開けたら家に着いていた 珠はいつの間にか手から離れ机の上においてあった

「あれは夢か幻か どっちでもいいや。勉強して寝よ」

その後はいつもどおりに寝るまでを過ごした

(なぜかって？ 魔法という単語に興味が沸いた

明日解かるのなら明日まで待とうじゃないか あの珠の^{デバイス}ことを真に受けてね？)

プロローグ（後書き）

ひー！

いろいろな2次創作を読んで自分も書いてみたけど難しい・

・

ほぼほんとやっていきますのでどうぞよろしくお願いします！

「うんは・・・」

ZZZZZZ

『起きて下さいー 着きましたよー』

「・・・え・・・？ 後9時間ぐらいほつといてよ・・・もおー
今日は土曜日だよ・・・ あれ」

違和感を感じ、目を開けた かわいい女の子の声？ 珠？

青空・・・？

あー 夢か 即座に目を閉じた

俺は・・・？ 昨日はベッドで寝てたのに背中がチクチクする・・・
なんか体もだるいし

「ハハハ 寝起きに女の子の音がきこえるなんて俺病気かな」

『まずは目を開けてくださいね 現実をみてください
言っただけでしょう？ 明日全て解かると』

「じゃあ何か？ 目を開けてみたら部屋の天井だったところが青空
になっ

珠からかわいい声が聞こえるのが現実か？」

『思い出したくないみたいです 少しまんしてください』

「なにをいって ああああああああああああああああ！！」

「！！！！！！」

『どござす？ 目が覚めました？』

俺はなりふりかまわず、立ち上がって目を開けた

「・・・ハッ！ たしか昨日かくかくしかじかで楽しみにして・

・
というか ここどこだよ！ なんだよこの森みたいのどこー！」

『一気に質問しないでくださいねー

ここはミッドチルダ首都はクラナガン あなたのいた世界とは違
うところですよ。

魔法が主軸に動いている世界と称しましょうか。

そして貴方がいるのは・・・どこでしょうねー！』

あ もうひとつ違和感に気づいた

「へー つまり頭を柔らかくして現実を見ないといけない・・・と
つまるところ迷子じゃん、どこか解からないとか」

『大丈夫ですよ 貴方の世界で言う警察に連絡をとりましたから』

「そかー なら安心だね じゃあ最後にひとつだけ・・・」

「なんで高校生の時ぐらいの背丈になってるんだよおおおおお
お」

ため息のような声が聞こえて説いてきた

『え だって貴方が言ったんじゃないですか 21歳が魔法なんか

信じれないって

なら中学3年生の15歳が丁度病気に掛かり始めて魔法を信じるようになるよ

資料に……」

「その資料をまず破棄……しろ」

凄んで言った

『は、はい 了解しました……』

で、でも知識も筋力もそのままですよ！」

「戻すことは『出来ません』ですよね」

『でも元の世界にも戻れないんだからいじゃないですか

こっちの世界で新しい 鹿島裕太かしまゆうた となれば

魔法を使えるようにも私がしておきました 貴方の魔法資質は……

なかつたですけど、細かいことはいいですよ」

「え？ 無いならなんでいままで会話が……」

『…… 偶然？』

「おい そんな偶然のせいで向こうの世界の全部を諦めないといけないのか？

待てよ そんなのねえよ 諦めきれねえよ なんのために大学まで……」

「その君ー！！ 大丈夫かねー！！」

1111は・・・(後書き)

すみません

行き当たりばったりで書くのはだめですね・・・
いきなり主人公がへこみました・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2244z/>

リリカルなのはStrikerS ~静かな力~

2011年12月8日02時58分発行